

2019年度 県立石岡特別支援学校 自己評価表

目指す学校像		◆一人一人の学びを大切にしている学校 ◆安全・安心で互いを大切に思う学校 ◆地域のよさを大切にしている学校				
項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策	
教務部	本校の教育目標の特色(4つの柱)を踏まえた取り組みを推進するために、小・中・高等部及び校務分掌部との連携を強化し、カリキュラムマネジメントに基づく教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な部連絡会(教務主任, 部主事, 校務分掌部長※教頭は必要に応じて)を実施して、情報交換を行う。</li> <li>各部と連携して、ICTを活用した授業及び道徳の研究授業の実施及び授業改善を行う。</li> <li>各部と連携して、地域資源活用の計画と実践を行う。</li> </ul>	A-①② B-③④ C-⑤⑥ D-⑦⑧			
教務	円滑な学校行事の計画, 運営と, 的確な学校全体スケジュールの管理, 運用に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営企画会, 運営委員会, 職員会議の議案の精選と周知の徹底を図る。</li> <li>校内ネットワーク(イントラネット)による情報の共有と, 液晶ビジョンによる情報提供を行う。</li> </ul>	A-① B-③			
	特色ある教育課程の検討作成に努める。(道徳, ICT, 作業学習での地域資源活用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携推進部と連携して, 地域資源のネットワーク構築と活用を深める。</li> <li>部連絡会において, 教育課程の情報交換により評価, 改善を行う。</li> </ul>	A-①② B-③④ C-⑤⑥			
	開かれた学校づくりの推進と校内の可視化の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育月間において, 地域とのつながりを考慮した, 学校公開の内容を, 関係する部と連携して計画及び実施をする。</li> <li>校内掲示方法を示したマニュアルを作成し, 学校全体で可視化を意識した掲示を行う。</li> </ul>	D-⑧			
教務部						

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
教科書・図書	教科用図書の採択に関する必要な事務処理を適切に行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動や事務処理の方法について係で周知するとともに、他校と連携を密にして情報の交換を行う。</li> <li>・教科用図書選定協議会、選定委員会の計画と実施を行う。</li> <li>・次年度の教科用図書選定にかかわるチェックを各学年で十分行うよう周知する。</li> </ul>	A-①②		
	教育活動での図書の活用の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規の図書の購入を行い、新規購入図書の紹介について、教員向けにイントラネットによる情報共有を行う。</li> <li>・児童生徒向けに、学期1回程度の図書だより発行し、情報提供を行う。</li> </ul>	A-①②		
	児童生徒が使いやすい図書室にするため、図書室の環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本の種類等分かり易い見出しづくりを行うなど、本の整理を定期的に行う。</li> <li>・蔵書の管理においては、コードを使用した電子化の導入の計画、実施を行う。</li> </ul>	A-①②		
庶務表簿	要録, 出席簿, 学級会計簿の準備・保管・点検補助を適切に行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースの有効活用と各表簿類の管理, 確認を各部と連携して行う。</li> </ul>	A-①② B-③		
	各種記入例を作成し, 記入しやすいようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内ネットワーク(イントラネット)に記入例・様式をアップし, 情報の共有を行う。</li> </ul>	A-①② B-③		
	掲示コーナーの有効活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示方法の工夫(タイトル・レイアウト)と掲示物の精選を図り, 有効な上表提供を行う。</li> </ul>	B-③		

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
基本研修	若手教員研修の手引に従い、初任者、3年次の職員の研修について、計画的に実施する。	・若手教員自身が自分で課題を設定し、解決が図れるように道筋を提示したり、助言や資料、情報の提供を適切に行ったりする。	A-① A-② B-③ B-④		
	若手教員の指導力向上のための情報提供や助言を行う。	・若手教員が効果的な指導を行うために教育環境の整備やICT活用ができるよう各分掌部と連携して情報提供や助言を行う。	A-① A-② B-③ B-④		
	若手教員のニーズに応じた研修の機会を確保する。	・若手教員の課題や疑問に応じた研修となるよう、若手教員の困り感に耳を傾ける機会を設け、適宜助言を行う。	A-① A-② B-③ B-④		
現職研修	児童生徒理解を深めるための人権教育に関する校内研修の企画運営を行う。	・授業デザイン研修部道德教育推進係と連携し、人権教育に関する校内研修の企画・運営を行う。	A-① A-② B-④		
	特教研等の関係機関等との連携を図り、教職員の研修の機会を確保する。	・教職員への特教研についての理解啓発をはかり、特教研入会を促す。 ・特教研研修のアナウンスを充実し、研修の機会の確保する。	A-① A-② B-④		
	特教研に関する事務処理等を円滑に行う。	・特教研の総会等に参加し、企画運営に関する理解を深める。	A-①		
渉外	PTA組織作りの準備や計画を推進する。	・PTA組織準備会及び本部役委員会で検討した内容を職員・保護者で共有し、検討・実施する。	A-①		
	本部役員会及び各専門委員会の活動を計画・実施できるように保護者及び職員間で連携を図る。	・本部役員会及び各専門委員会等の活動を保護者主体で行えるように資料準備や会議の進め方を工夫する。	A-①		
	教育環境を整えるための奉仕作業等を計画実施できるようにする。	・教育環境整備係と連携し、除草作業または清掃活動などを行えるようにする。	A-①		

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
授業デザイン研究部	授業デザインに係る校内研修を推進するとともに、その他学校全体に係る種々の研修との一体化を併せて推進し、総合的な専門性の向上を図る。	・年度始めに、各校務分掌が計画している研修を把握し、研修実施の際には、関係する分掌と連携して研修の充実を図る。	A-①② B-③④ C-⑥ D-⑧		
授業デザイン研究部	校内研究推進	各校務分掌と連携し、校内研修を推進する。	・各校務分掌と連携し、研修の年間計画調整して、年間を見通して研修に取り組むことができるようにする。	A-① B-④	
		地域の小・中・高等学校との合同研修を計画し、専門性の向上を図る。	・地域支援部と連携し、校内研修と地域の小・中・高等学校のニーズを把握し合同研修を年2回実施する。	B-④ D-⑧	
		授業デザインに係る授業研究に向けて指導案の形式を検討する。	・教科領域を合わせた指導における各教科との関連を明確にするための指導案の形式の検討を行う。	B-④	
	道徳教育推進	小学部、中学部、高等部での「道徳」の授業をとおして、相手を思いやる心を育む。	・授業実践事例を蓄積するとともに、各学部での授業研究を実施することで授業改善を行う。	A-②	
		学校教育全体から見て、相手を思いやる心を育む道徳教育を推進する。	・児童生徒支援部や保健安全部を中心とした関係する分掌と連携するとともに、学校行事や教科・領域等のかかわりを踏まえた道徳教育の全体計画を立案する。	A-② C-⑥	
		学習指導要領を踏まえた道徳教育を推進する。	・学習指導要領解説の内容項目を月ごとにテーマとして設定して年間指導計画を立案するとともに、内容項目の解説の内容を校内職員に周知する。	A-②	
	学習指導・支援	年間指導計画の書式を検討する。	・生活単元学習の年間指導計画について、合わせた教科を明確に示すことができる書式を検討する。	B-④	
		自立活動の指導計画について検討する。	・他県や他校の手順シートの書式の情報を収集する。 ・本校での手順シートの活用を検討する。	B-④	
		プロフィール、個別の支援計画、個別の指導計画の書式の検討をする。	ICT活用推進部と連携し、システム運用する。作成上改善点が見られた場合はICT活用推進部とともに改善を行う。	B-③④	

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
	ICT活用推進	個々のニーズに応じた、合理的配慮の提供及び情報活用能力の育成、教職員の校務の効率化を図るとともに、教育環境づくりを進めるために、ICT活用及び機器等の整備を推進する。 ICTの活用について、技術的な支援や共同事業などを行いながら、各学部、各校務分掌部・係等と連携する。□	・授業等で活用できるICT環境の整備と活用の仕方についての研究および伝達 ・情報の共有化と業務の効率化を目指した校務用情報システムの開発、導入、整備 ・どのようにICTを活用していくかを関連の部署および関係者と検討し、技術的な支援をしたり、共同事業を行ったりする。	B-③④ D-⑧		
ICT活用推進	ICT活用	教室等のICT環境の整備を行う。	・無線LANの環境を構築するため、通信機器を導入し、必要な設定を行う。	B-③		
		液晶ビジョンやタブレット端末等を授業等で活用できるよう研究し、伝達する。	・液晶ビジョン(TV)やタブレット端末、教室に設置されるPCの活用方法について研究し、授業等での使用方法について伝達する。	B-③④ D-⑧		
		技術的な支援や共同事業を行い、各学部や各校務分掌部、係等と連携する。	・各種システムやアプリケーションの導入や利用の仕方などの技術的な支援を行ったり、各種システムの開発や研修会の協力、指導方法の研究などを共同で行ったりする。	B-③④		
	校内ネットワーク整備	校務用情報システムを開発、導入する。	・イントラネットシステム、ファイルサーバー、メッセージングツール、デジタルサイネージシステム、画面転送システムなどを設定、設置し、情報共有を促して、業務の効率化となるよう、適切に運用できるよう管理する。	B-③		
		個別の指導計画等のデータベースシステムを開発し、管理する。	・個別の指導計画等のデータベースシステムを開発し、必要な機能の追加など改良を加えながら、適切に運用できるよう管理する。	B-③		
情報伝達のシステムを導入し、活用する。		・情報伝達の効率性を高めるため、デジタルサイネージシステムや画面配信システム、メール配信システムなどを利用し、設定、管理する。	B-③			

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
地域支援部	合同研修会や公開授業、依頼元からのニーズに応じた研修協力をおおして、地域の特別支援教育の充実に努める。	・授業デザイン研究部、ICT活用推進部と連携し、地域の学校(園)の教職員に向けて、特別支援教育に関する研修会や協働した授業研究を計画、実施する。	B-③④ D-⑦⑧		
地域支援部	巡回相談をおおして、依頼元のニーズに応じた相談・援助に努める。	・巡回相談では、依頼先の学校(園)のニーズに応じた支援を心がけて対応する。また、巡回相談員としての専門性向上を目指しながら、市教育委員会や外部専門家との連携を密にし、より効果的な援助ができるようにする。	B-③④ D-⑦⑧		
	地域支援部の活動について情報提供に努め、地域の学校(園)や関係機関と顔の見える連携ができるようにする。	・本校ホームページを活用し、学校説明会や体験学習等について情報発信を行う。年間をおおして、随時、地域の学校(園)や関係機関と情報交換をしながら活動する。	D-⑦⑧		
	次年度、就学年齢児と保護者を対象に情報提供に努める。	・市教育委員会と連携し、保護者が児童の実態に合った就学先を選択できるよう情報提供を行い、体験入学を4回実施する。	D-⑦⑧		
	ニーズに応じた研修協力をおおして、地域の幼児特別支援教育の充実に努める。	・保育所管轄の市こども福祉課や市教育委員会と連携し、地域の幼児教育施設の教職員に向けて、特別支援教育に関する研修会を本校にて実施する。	D-⑦⑧		
	本校への就学予定児の移行支援の充実に努める。	・次年度、本校就学予定児がスムーズに本校での学校生活をスタートできるよう、対象児が利用していた幼児教育施設への移行支援訪問を計画する。	D-⑦⑧		
	本校への就学予定児の移行支援の充実に努める。	・次年度、本校就学予定児が利用している幼児教育施設を訪問し、スムーズに本校での学校生活をスタートできるようにする。	D-⑦⑧		
就学前教育連携					

項目		具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
地域連携推進部		学校公開や学校間交流, 地域交流等とおして, 地域とのつながりを深めるとともに, 地域への情報発信を積極的に進め, 地場産業等の地域資源の開拓と有効活用を図る。	・交流学习や協働学習の校内での希望調査や, 地域資源に関する情報収集を行いながら, 地域の方々と有意義な教育活動ができるよう努めていく。 (地場産業を取り入れた本校オリジナル製品・販売や開校記念歩く会の立案・実施など)	A-① C-⑤⑥ D-⑧		
地域連携推進部	学校間交流において, 本校についての理解啓発に努めるとともに, 学校周辺の小・中学校等と共に学び合う機会をつくる。	・石岡市教育委員会から市内の小・中学校の状況を伺う等の連携を図る。 ・学校周辺(小桜小, 小幡小, 八郷中)の学校に, 本校について理解をしていただけるよう説明に伺ったり, 本校の児童生徒の美術作品や学校パネル等の展示をする。	A-① D-⑧			
	地域交流において, 交流相手や団体の開拓を行い, 地域の人々との信頼関係を作ることができる。	・地域資源についての情報共有を地域連携係と密に行う。 ・本校の紹介パネルを作成し, 学校についての情報発信や理解啓発に努める。 ・実施にあたり, 随時交流相手と打ち合わせを行うよう当該担当者に説明し, 各学部の進捗状況を把握する。また, 来年度につなげるために交流担当者会議を企画し, 実施する。	A-① C-⑤⑥			
	居住地校交流において, 交流の目的を保護者, 担任, そして相手校の担当者それぞれの理解を促し, 有意義に行えるようにする。また, 本校における規定を検討していく。	・居住地校交流について, 係内での話し合いと他校の交流学习の取り組みの情報を踏まえ, 本校の規定を作成し職員に共通理解を図る。 ・相手校との事前の打ち合わせの際には, 児童生徒の実態や配慮事項などを伝えたり, 互いに有効な教育活動が行えるような時間や場面の設定等を行うよう担任に促す。	A-① D-⑧			

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
部	<p>地場産業と協働した授業づくりのために、連携先を開拓するとともに相互の信頼関係を構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産業や地域の人材活用について調査し、職員に情報提供する。</li> <li>・各計画に沿った連携先との連絡調整を行う。</li> <li>・実施状況や結果について把握し、次年度の計画に活用できるようにする。</li> </ul>	C-⑤⑥		
	<p>地域資源についての情報提供をし、活発に活用した学習活動の推進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用推進部の協力を得て、情報をデータベース化し、職員がいつでも共有できるようにする。</li> <li>・地域の資源マップを作成し、校内に掲示し随時情報提供をしていく。</li> </ul>	C-⑤⑥		
	<p>教育月間における学校公開の際に、本校の地域との取り組みについて情報発信をし、理解啓発に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の紹介パネルの掲示をしたり、作業班のオリジナル製品の販売等を教務係と連携しながら計画をする。</li> <li>・教務係と連携し、連携先に学校公開のお知らせをする。</li> </ul>	D-⑧		



項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
児童生徒支援部	一人一人に応じた自立と社会参加に向けて、好ましい人間関係を築き、安心して学校生活を送ることができるように、児童生徒を理解し、関係機関と連携しつつ将来に向けた支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な校内のルールを作成し、児童生徒が分かりやすいように提示する。</li> <li>・常時、児童生徒の共通理解ができ、支援できる体制の整備をする。</li> <li>・安心・安全な通学方法の整備をする。</li> <li>・児童生徒が主体的に活動することができる児童生徒会の運営方法や特別活動の内容の検討をする。</li> </ul>	A-①② C-⑤		
児童生徒支援	ルールを守る、進んで挨拶ができる、相手を思いやる行動ができる児童生徒の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3校のルールを基に、本校の児童生徒に適したルールを作成する。「なぜ・どうして」が児童生徒に分かりやすいように学部集会や授業で説明をする。</li> <li>・マナーアップ運動やいじめアンケートを実施する。</li> <li>・道徳教育推進係と連携し、ありがとう掲示板の作成をし、感謝をする気持ちや自尊心を育てる。</li> </ul>	A-①②		
	相談しやすい校内支援体制を作り、多方面から児童生徒の支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談シートやフローチャートを作成し、活用することで、相談しやすく迅速な対応ができるようにする。</li> <li>・職員会議で、情報の共有化を図り、様々な視点から個々の児童生徒を支援できるようにする。</li> <li>・校内支援会議の開催をする。必要に応じ、地域支援部と連携し、外部機関を活用する。</li> </ul>	A-①		
	不審者対応の知識を深め、防犯に対する意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面を想定した職員の訓練を実施する。</li> <li>・避難訓練において画像等を提示しながら児童生徒が適切な行動ができるように理解を深める。</li> </ul>	A-①		

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
通学支援	安全にスクールバスを運行し、安心して登校できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・号車担当職員が運転手および添乗員と常に情報交換をする。</li> <li>・連絡カードを用いて管理職および担任との共通理解を図り、迅速に対応策を考える。</li> <li>・保護者との連携を密にし、安全な運行についての理解を深めていけるようにする。</li> </ul>	A-①		
	自主通学生、自力通学生が安心して通学できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に児童生徒や保護者との情報交換をし、通学時の状況を把握する。</li> <li>・係と担任間、担任と保護者間で、経路上の危険箇所等についての共通理解をし、児童生徒を支援できるようにする。</li> </ul>	A-①		
	通学中における緊急時の体制を整理し、適切な対応ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバス運行中における様々な緊急時を想定し、対応マニュアルの作成をする。</li> <li>・自主・自力通学生の災害時および不審者遭遇時における適切な行動等をまとめ、児童生徒に提示する。</li> </ul>	A-①		
特別活動	児童生徒の主体的な活動を促す体制整備を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒会会則の制定をするとともに、特別活動に関する各運営方法について整理をし、体制作りをする。</li> <li>・児童生徒会での話し合いを通し、児童生徒自身が考え、主体となって活動する機会を多く設定する。</li> </ul>	A-①②		
	文化祭において、児童生徒と地域とのつながりがもてるような活動の企画をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携係と連携を図り、地域の団体や企業などと連絡をとり、活動や出展等について検討していく。</li> </ul>	C-⑤		
	児童生徒のアイデアを活用した本校のマスコットキャラクターを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒からマスコットキャラクターのアイデアを募集し、自分たちで作ったキャラクターという意識を持てるようにする。</li> </ul>	C-⑤		

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
進路・移行支援部	一人一人の児童生徒の状況や特性、ニーズに応じた卒業後の進路希望を実現するために、企業や福祉事業所等の関係機関と十分に連携をするとともに、移行支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場開拓や関係機関との連携において得た様々な進路情報等を伝達する。</li> <li>・外部機関への正しい理解啓発を図る。</li> <li>・発達段階に応じた進路指導に努める。</li> <li>・円滑な移行支援のための体制をつくる。</li> </ul>	B-③ C-⑤ D-⑧		
進路・移行支援部	本校や本校の進路指導について外部関係機関へ理解啓発を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関訪問や外部関係機関の協議会に参加し、本校や本校の進路指導について説明をし、周知を図る。</li> <li>・地域の企業や団体、地域の学校への授業公開や「キャリア教育地域連携推進協議会」を実施し、意見交換を行う。</li> </ul>	C-⑤		
	発達段階に応じた進路学習・進路指導の充実を図り、自己の進路選択に生かせるように努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階に応じた働くことについての様々な体験(係や当番活動、施設・職場見学や体験、現場実習等)を学部伝達する。</li> <li>・卒業後の生活を意識した進路学習会(高等部)を実施するとともに、保護者や他学部職員への情報提供をする。</li> <li>・地域連携推進部と連携し、地域での見学や体験に取り組めるようにする。</li> </ul>	B-③ C-⑤		
	職員や保護者への進路に関する情報提供の充実を努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産業を含めた職場開拓を実施し、情報収集をする。</li> <li>・進路便りの発行や福祉事業所マップ等のデータベース作成を行い、周知を図る。</li> </ul>	B-③ C-⑤		
	移行支援(卒業後支援)	進路先や関係機関との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリア教育地域連携推進協議会」や福祉相談会・職業相談会において福祉課や相談支援事業所等の関係機関との情報交換を行う。</li> </ul>	C-⑤ D-⑧	
	円滑な移行支援のための体制づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の教育移行支援計画や移行支援会議の持ち方、卒業後の移行支援に必要な情報の保管の仕方を作成する。</li> </ul>	C-⑤		
	卒業後の充実した生活のための支援に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の生活や余暇の過ごし方について関係機関と連携しながら情報提供に努める。</li> </ul>	C-⑤		

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策	
保健安全部	児童生徒や教職員が健康や防災安全に対する理解を深めるとともに、関係機関と連携し、安全・安心な学校生活を送るための校内体制及び教育環境の整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然散策等を通じた健康づくりに取り組む。</li> <li>・食物アレルギーに配慮した安全安心な食育を進める。</li> <li>・防災ブックを作成し活用する。</li> <li>・PTAや地域と連携した教育環境整備を行う。</li> </ul>	A-① B-④ C-⑥			
	保健衛生	児童生徒が健康についての意識を高め、進んで健康づくりに取り組もうとする態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日のトレーニングやウォークラリーの運動、足育指導を通して、健康カードにチェックをしていき、継続的な健康づくりを行う。</li> <li>・地域連携推進部と連携して、本校独自のウォークラリーコースを作る。</li> </ul>	A-① C-⑥		
		保護者や関係機関と連携し、児童生徒の心身の状態について正確な情報を得る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健委員会や面談等において、児童生徒の健康状況や感染症等について話し合い、情報を生かした問題解決を行う。</li> </ul>	A-①		
		緊急時において迅速な対応ができるように、職員間の危機管理意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の対応に関する研修会を充実させるとともに、学期に1回、マニュアルに応じたシミュレーション研修を行う。</li> </ul>	A-①		
	食育推進	食べる機能に合わせた食形態の食事を提供し、楽しみながら食べる機能の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な給食指導ができるように、外部講師による教員対象とした食べる機能や食事指導についての研修会を実施する。</li> <li>・給食の時間において、児童生徒の姿勢や食環境、摂食等の様子をみることで、安全に食べることができるよう、担任とともに実際の食事指導にあたる。</li> </ul>	A-① B-④		
		家庭・学校・病院が連携し、食物アレルギーの対応を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギー対応チェック表を用いて事故の防止ができるよう、アレルゲンを含む料理について家庭と学校で相互に確認し、安全に食事ができるようにする。</li> </ul>	A-①		
		児童生徒が望ましい食習慣を身に付けることができるように意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任と連携し、生活単元学習や職業家庭科等で食に関する授業を行い、食習慣に興味を持てるようにする。</li> </ul>	B-④		

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
防災安全	避難訓練や引き渡し訓練を実施し、教職員内の災害時の対応や役割分担の共通理解を図る。	・様々な自然災害や状況に応じた役割を担当者が分かるように工夫した避難訓練の実施計画を作成する。	A-①		
	自然災害等に備え、活用できる資料の作成を行い、防災教育の推進に努める。	・災害時に必要な情報を収集した「防災ブック」の検討、作成を行い、児童生徒が実際に活用できるようにする。	A-① C-⑥		
	PTA組織、地域防災組織との連絡を密にし、防災及び安全管理に努める。	・PTA専門委員会の防災安全委員との連携を図り、引き渡し訓練を実施する。 ・防災対策委員会や地域防災連絡協議会を実施する。	A-①		
教育環境整備	安心安全な学校生活が送れるように、定期的に安全点検や清掃を行う。	・職員による安全点検の体制を整備するとともに、児童生徒及び職員による清掃を計画・実施する。	A-①		
	PTAや地域と連携し、教育環境の整備を進める。	・PTAや地域連携推進部、渉外係と連携し、除草作業、清掃などを行う。	A-① C-⑥		
	学校での清掃活動やプランターづくりに加え、地域での清掃活動を行い、道徳的な心情を育む。	・教科領域道徳と連携し、小学部で校内クリーンデイ、中・高等部で地域のクリーンワークを計画、実施する。	A-①		

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
小学部	身近な生活の安全や防災について知るとともに、基本的生活習慣の定着をめざし、友達と仲良くし、助け合う心を育てる。	・避難訓練等を通じて、安全に関して学習する機会を設けるとともに、普段から危険箇所やヒヤリハット等の把握を行い共通理解できるような体制をつくる。 ・特別活動係や道徳教育推進係と連携をもちながら、学部集会や各学年・ブロックでの道徳で、友達と仲良くしたり、助け合ったりするすばらしさについて扱う。	A-①②		
	家庭との連携を密にし、一人一人のニーズや発達段階に応じた学習指導・支援に努め、日常生活に必要な学力の定着を図る。	・転出した学校等の資料を参考にするとともに、家庭とも連携を取りながら、一人一人の実態を適切に把握する。 ・児童の実態にあった各教科や自立活動の学習内容や支援を検討するとともに、授業デザイン研究部と連携をもちながら、視覚情報の活用など有効な授業デザインについて、研修を行う。	B-③④		
	地域資源を活用した体験的な学習や地域の人々との交流をとおして、健やかな心と体を育む。	・地域連携推進部と連携をもちながら、地域資源の把握と発掘を行い、児童の実態を考慮しながら、有効な学習や交流を検討・企画する。	C-⑤⑥		
	地域の幼児教育施設や小学校等との連携を深め、学校公開や協働した授業研究をとおして、特別支援教育の理解・啓発に努める。	・地域支援部と連携をもちながら、体験入学や体験学習、学校公開や合同研修会を実施し、地域の幼児教育施設や小学校と連携できる素地をつくる。	D-⑦⑧		
1年	安全に生活するための基本的なルールを知るとともに、基本的生活習慣を身に付け、友達と一緒に過ごすことができるようにする。	・廊下の歩行や室内での過ごし方など、学校生活において安全に過ごす基本的ルールを場面ごとに分かりやすく伝える。 ・毎日の生活の中で、必要に応じて写真カードや具体物などを提示し、自分から取り組めるような言葉掛けを行う。 ・友達とのかかわりを重視した活動を取り入れ、友達と一緒に過ごす楽しさや安心感を体験できるようにする。	A-①②		
	児童一人一人の実態や学習生活上の課題から目標を設定し、学習や活動に取り組む姿勢を育む。	・進んで活動に取り組めるよう見本や写真を提示したり取り組みの様子を称賛したりし、分かりやすく達成感の得られる学習活動を設定する。 ・児童の実態把握をし、学習や生活の課題を明らかにした上で目標や手立ての設定を行い、教員間で共通理解を図りながら教科指導や自立活動の充実に努める。	B-③④		
	様々な場面で体を動かす楽しさを知り、体力の向上を図る。	・地域の自然や環境を生かした活動や、遊び、自立活動、体育など、教師や友達、または地域の方々と一緒に体を動かす機会を設け、楽しみながら様々な動きを経験できるようにする。	C-⑤⑥		

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
2年	体験入学や学校公開をとおして、特別支援教育への理解を広げる。	・地域支援部と連携をもちながら、体験入学や体験学習、学校公開を行い、一緒に学習する機会を作る。	D-⑦⑧		
	約束やきまりに気付いて行動しようとしたり、日常生活に必要な習慣を身に付けたりして、友達と一緒に過ごすことができるようにする。	・学校生活のきまりに関わる学習を通して、安全な生活に取り組めるように促す。 ・順番を守ったり簡単なきまりのある遊びをしたりして、友達と仲良く過ごせるようにする。 ・身に付けた日常生活習慣を自ら行うことができるよう促す。	A-①②		
	児童一人一人の実態に合った目標を設定し、興味関心をもって活動に取り組もうとすることができるようにする。	・教員同士や保護者との共通理解を図り、児童の実態を十分に把握して、各教科や自立活動の目標や課題の設定を行う。 ・活動に対する見通しが分かりやすくなるように、写真やイラスト、具体物を提示するなど、教材や授業構成を工夫する。	B-③④		
	具体的な活動や体験をとおして体力の向上を図り、生活に生かそうとする態度を養う。	・トレーニングや体育、遊び、散歩などで全身を使った動きを取り入れ、日常的に体を動かす機会を作る。 ・地域資源を生かした活動や体験を通して、体力の向上を図る。	C-⑤⑥		
	体験入学や学校公開をとおして、特別支援教育への理解を広げる。	・地域支援部と連携をもちながら、体験入学や体験学習、学校公開を行い、一緒に学習する機会を作る。	D-⑦⑧		
3年	児童が安心して学習に取り組めるよう、安全な教育環境の整備に努め、道徳の授業を通して友達を思いやる豊かな心を育てる。	・児童の個々の優位性に配慮して、絵カードや写真などの視覚的な情報等を活用し、児童が安心してかつ主体的に活動できるような工夫をする。 ・道徳で友達に関する内容を扱うとともに、友達とかわる場を多く設定する。	A-①②		
	家庭と密に連携を図り、個々のニーズや実態に応じた学習支援に努め、日常生活に必要な確かな学力の定着を図る。	・担当教師同士が保護者との共通理解を図り、アセスメントを通して児童の個々の実態を的確に把握して、各教科や自立活動の目標を設定する。 ・RPDCAサイクルに基づいた授業を実践できるよう、教師同士がアイデアを出し合いながら視覚情報を活用するなどの改善を行い、多面的な授業評価をする。	B-③④		
	地域の豊かな自然や公共施設を有効に活用し、地域に根ざした授業を取り入れ、地域資源と接することで健やかな心と体を育む。	・地域資源と接する機会を授業に取り入れ、自然体験等を通して児童が地域の人々と交流できる場を設定する。	C-⑤⑥		

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
小学部	体験学習や学校見学等の機会をと おして、特別支援教育の理解・啓発 に努める。	・児童が学習に集中できるよう教室内の環境を整え、 その工夫を外部の方にも見てもらうようにする。 ・児童の活躍する姿を学級通信で情報発信する。	D-⑦⑧		
	児童がお互いの活躍する姿を称 賛、応援する教育環境を整備し、一 人一人の実態に応じた基本的生活 習慣の育成を図る。	・積極的に授業に取り組む姿勢を称賛することで、安 心して学習できる環境を整える。 ・友達の前で発表する場面や友達同士で関わる場面 を多く設定し、言葉をかけ合ったり、行動を共にしたり することができるよう支援にあたる。 ・保護者との連携、学年間での実態把握から、個に応 じた基本的生活習慣を把握し、指導にあたる。	A-①②		
	保護者や専門家との情報交換を基 に、一人一人の実態に応じた教材 教具の工夫に努め、学力の定着を 図る。	・保護者との連絡を密に行い、実態を適切に把握し、 各教科や自立活動の目標を設定する。 ・専門家からの助言をもとに、指導の仕方や教材教具 等について、工夫・改善を行う。	B-③④		
	地域の公共施設や豊かな自然環境 の中で体験的な学習を行い、健や かな心と体を育む。	・地域の自然に触れる体験的な活動を多く設定し、周 辺施設等との連携や交流の機会を設定する。	C-⑤⑥		
	校外学習や保護者への学年だより をとおして、特別支援教育の理解・ 啓発に努める。	・充実した校外学習が行われるよう、活動内容につい て十分な意見交換を行うようにする。 ・学年だよりでは、活動の様子を写真で紹介したり、大 きな行事の予定をわかりやすく説明したりする。	D-⑦⑧		
5年	集団活動の場をとおして、助け合 う心と社会性を養うとともに、主体的 に行動しようとする態度を育む。	・集団活動でのルールを分かりやすく伝えることで、安 心して活動に取り組めるようにする。 ・学校行事や特別活動、他学部・学年との活動の場を 利用し、児童相互が積極的に関わられるようにする。ま た、児童が主体的に考える場面を多く設定する。	A-①②		
	成功体験を通して、学習や身の周 りの事象への興味関心を育てるとと もに、学習した知識・経験を日常生活 に生かせるようにする。	・個々の実態を的確に捉え、各教科や自立活動を横 断的に計画・実践する。 ・学習環境を整え、視覚的な情報を活用するなど、分 かりやすく、扱いやすい教材教具を工夫する。	B-③④		
	自然との触れ合いをはじめとした、 体験活動を多く取り入れ、心身の調 和的発達を目指す。	・地域の自然に触れる機会を多く設定するとともに、周 辺施設等との連携を図り、体験活動の充実に努める。	C-⑤⑥		



項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
	<p>中学部との連携を意識し情報を共有するとともに、学校公開や掲示物の充実等により学校の情報を分かりやすく伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部と連絡を密に取り、学部間の交流活動を実施することで情報を共有できるようにする。</li> <li>・学校公開や掲示物の充実により、来校者に学校の情報を正しく発信できるようにする。</li> </ul>	D-⑦⑧		
	<p>よりよい基本的生活習慣の確立を目指すとともに、安全に関する知識を構築し、ルールやマナーを守りながら友達と一緒に健やかな生活を送ることができる力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な大人の指示に従って適切な行動ができるよう、身の回りの生活の安全や交通安全、防災に関する知識を学ぶ機会を設定する。</li> <li>・一緒に行動する力や友達を思いやる心を育成するために、道徳や学級活動、自立活動等で集団活動を多く取り入れる。</li> <li>・基本的生活習慣について、家庭の協力を得たり、栄養教諭や養護教諭と連携したりしながら指導にあたる。</li> </ul>	A-①②		
6年	<p>児童の実態や将来像について家庭と共通理解を図り、児童の願いをふまえながら教育的ニーズを把握したり発達段階を考慮したりしながら、優先順位を決定して支援にあたる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前籍校の資料を参考にし、保護者と連絡を密にしながら実態を確認し、小学部段階で獲得させたい力を保護者に具体的に提示した上で、児童や保護者の願いを踏まえて、各教科や自立活動の指導方針を決定する。</li> <li>・RPDCAサイクルに基づいた授業改善を行い、視覚的な情報を有効に活用するなど、児童に分かりやすい授業を目指して支援にあたる。</li> </ul>	B-③④		
	<p>学校周辺や石岡市の自然や地場産業、公共施設等についての学習を通して、地域の特色の理解と地域への愛着を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活単元学習において、学校周辺の地域や市について、特色ある地形や土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働きについて調べたりまとめたりする。</li> <li>・地域の人々との交流や、地域の社会見学等での体験的な学習を通して、地域の良さを発見できるようにする。</li> </ul>	C-⑤⑥		
	<p>中学部との連携を行うとともに、体験入学や学校公開、地域の小学校からの学校見学の際には協力し、特別支援教育の理解・啓発にあたる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部への進学を踏まえ、中学部体験を実施する。</li> <li>・教室環境を整えたり、児童の作品等の学習成果を掲示したりして、教育的効果を上げる環境や工夫等を示す。</li> <li>・授業や指導方針、支援方法について質問があった際には、分かりやすく答える。</li> </ul>	D-⑦⑧		

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
中学部	身近な生活の安全や防災に理解を深めるとともに、基本的生活習慣の確立を図り、相手のことを思いやり、進んで親切にする心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・防災に関する学習場面を設定するとともに、整理整頓された教室環境等の整備に努める。</li> <li>「道徳」の授業をとおして、自ら考えたり、主体的に判断して行動したりする場面を多く設定し、友達を思いやり、親切にしようとする気持ちの育成を図る。</li> </ul>	A-①②		
	小学部(小学校)までに培った学力をもとに、日常生活の中で活用できる学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動や国語・数学の時間をとおして、生徒の実態を的確に把握し、学習目標に応じた指導形態や指導体制を工夫するとともに、タブレット等ICT機器を効果的に活用しながら日常生活に必要とされる基礎的・基本的な能力の育成に努める。</li> <li>学習したことが般化されるよう、日常生活の中でも生かせるような学習場面を設定する。</li> </ul>	B-③④		
	地域の社会見学や地場産業を生かした体験活動や地域交流をとおして、働くことへの関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習をとおして、地域の職場見学や体験を実施し、身近で働く人達との交流を図る。</li> <li>作業学習をとおして、働きたいという意識を高められるような状況を設定した上で、働くために必要な基礎的・基本的能力の育成を図る。</li> </ul>	C-⑤⑥		
	地域の小学校や中学校等との連携を深め、学校公開や協働した授業研究をとおして、特別支援教育の理解・啓発に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつでも公開できるような学習環境を整備しながら、地域の方や近隣の学校等へ積極的に情報を発信し、理解・啓発をしていく。</li> <li>学習の様子を伝えるために、必要かつ精選された掲示物を提示する。</li> </ul>	D-⑦⑧		

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
1年	中学部の生活に慣れ、生活の流れや活動に見通しをもちながら、挨拶やきまりを守るなど、集団行動の基礎的態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の流れに見通しをもって取り組むことができるよう、シンプルで視覚的にも分かりやすい教室環境を整備し、言葉かけの工夫や改善等、適宜を行う。</li> <li>集団活動の意識を高められるよう、教師が率先して挨拶をしたり、きまりや目標を事前に確認したりする。</li> </ul>	A-①②		
	生徒一人一人の教育的ニーズに応じた学習内容や手立てを工夫し、ICT機器を活用することで、学習に対しての意欲の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動の時間とおして、生徒一人一人の学習課題を把握し、教材や提示の仕方などの支援方法について教師間で共通理解を図り、一貫した指導や評価を行う。</li> <li>学習への意欲を高められるよう、「できた」という成功体験を大切に、「またやってみよう」という気持ちを育てていく。</li> </ul>	B-③④		
	様々な体験活動を通して、働くことへの意欲や技能の向上を図り、社会参加の基礎的スキルを身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業や行事等において、体験的な活動を働くことと関連付けていながら、学習の場を設定していく。</li> <li>達成感や充実感を得られるような学習内容を工夫し、社会参加の基礎を育てていく。</li> </ul>	C-⑤⑥		
	保護者と連携を図りながら、学習環境の整備及び情報発信に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級だよりを定期的に発行し、保護者等へ様子を伝えるようにする。また、掲示板を充実させ、学習の様子も合わせて伝えていく。</li> <li>小学校や小学部からよりスムーズな移行ができるよう、連携を図りながら、体験学習の充実に努める。</li> </ul>	D-⑦⑧		
2年	基本的な生活習慣やマナーの確立、安全・防災の理解に努め、中学生としての自覚を高めていけるような段階的・継続的な支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>着替えや掃除の仕方、言葉遣い、友達との関わり方、学校生活を安全に過ごしていくにはどうすべきか等、適宜授業で取り上げていく。その内容を繰り返し指導することで、基本的な生活習慣の確立に努める。</li> <li>学習した内容を保護者に伝え、保護者と共通理解することで基本的な生活習慣の定着を図る。</li> </ul>	A-①②		
	生徒の障害の程度や発達段階を踏まえ、身につけた力を日常生活で活用できるよう、生徒の学習意欲を高めるとともに、ICT機器を活用しながら基本的な学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動の時間とおして、一人一人の障害特性や発達段階を教師間で共有し、個別の指導計画を十分に活用しながら、課題に対する共通理解を高める。</li> <li>日常生活で必要とされる学習内容を精選し、より効果的な支援をしていく。</li> </ul>	B-①②		

中学部

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
	地域との交流等、様々な体験を通して、将来の社会参加の方法を知り、地域や社会に関わっていかうとする態度や技能を育てるとともに、地域で働く人の様子を知り、働くことへの興味・関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事をとおして、他者を尊重し、自己の個性を發揮しながら、自分の考えを適切に伝えられるように支援し、協力して物事に取り組んでいく場を設定する。</li> <li>・地域社会での過ごし方について話し合う機会をもち、将来の豊かな生活設計について考える場を設定していく。</li> </ul>	C-⑤⑥		
	情報発信する場を多く設定し、生徒の良さを伝えたり、学習成果を伝えたりすることで特別支援教育の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳や学年だより等で、随時学習の様子を伝えていく。特に、頑張ったことや良かったことを伝えるようにすることで、自己肯定感を高められるようにする。</li> <li>・学年掲示板を有効活用し、日々の学習の様子が伝わるようにする。</li> </ul>	D-⑦⑧		
	生活安全や生活習慣、人への思いやりについて、具体的な活動を通じた指導を行い、生徒が自ら主体的に取り組める力や態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場に応じたマナーやルール、身だしなみ、場に応じた適切な言動・態度などに関する支援を、個々の実態や課題に応じて継続的に行う。</li> <li>・意欲を高められるよう、できるだけ生徒の生活場面や興味・関心に即した学習課題を設定する。</li> </ul>	A-①②		
3年	個々の指導計画に基づいた適切な支援・評価を行うことで、生徒の学習意欲を高めながら、日常生活の中で活用できる学力の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動や国語・数学の時間をとおして、生徒一人一人の実態や課題を的確に把握し、個に応じたより適切な支援を行う。また、自己評価や他者評価を有効に活用しながら、毎時間、必ず授業の振り返りを行う。</li> <li>・タブレット等ICT機器を効果的に活用しながら、生活に即した活動を取り入れるとともに、成功体験場面を多く取り入れ、成就感や達成感を味わえるようにしていく。</li> </ul>	B-③④		
	様々な体験活動や地域社会での活動を通して、働くことへの関心を高め、将来働くために必要な力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割の遂行や各行事への参加をとおして、自己の個性を發揮しながら他者と協力して物事に取り組むようにする。</li> <li>・保護者や地域、関係機関と連携を図りながら将来の生活や働くことについて考える機会を設ける。</li> </ul>	C-⑤⑥		
	掲示物を充実させたり、発表場面を多く設定したりすることで、中学部最高学年としてのより良い姿を伝えていき、特別支援教育の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自信をもって発表できるよう、学習成果発表の場や集会での司会進行等、人前で発表する機会を多く設ける。</li> <li>・高等部との連携を図りながら、高等部見学や体験を充実させていき、よりスムーズな移行へつなげていく。</li> </ul>	D-⑦⑧		

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
高等部	自ら安全に生活するために必要な事柄を考え行動できる力を身に付けるとともに、働くことや公共のために役立つことをする心を育てる。	・学校生活を安心して過ごすために教室環境の充実とともに生徒の特性等を教師間で共有し生徒、保護者、教師との信頼の定着を図る。道徳の教科化に伴い支援・指導を有効に活用し、充実した支援に努める。	A-①②		
	中学部(中学校)までに培った学力をもとに、卒業後の生活を想定した学習内容を精選し、社会生活に必要な学力の定着を図る。	・中学部(中学校)段階でのキャリア発達を踏まえ生徒一人一人の実態を的確に把握し生徒から「気づき、考え、実践」することのできる授業展開を行い、社会での生活に生かすことのできる能力を育てる。	B-③④		
	現場実習や地域交流等とおして、自立と社会参加に必要な技能や態度の育成を図る。	・社会規範やルールを理解し、社会的な対人関係を築くとともに自立活動や職業的な学習においても集団活動を円滑に進める力としてのコミュニケーション能力を高める。	C-⑤⑥		
	地域の中学校や高等学校との連携を深め、学校公開や協働した授業研究をととした特別支援教育の理解・啓発に努める。	・学校間交流や学校公開等の場면을積極的に生かし、地域の方々との交流する機会を増やすことで地域との密接な関係を築く。	D-⑦⑧		
1年	学校生活における自らの役割や安全な生活に必要な行動を考え、個々が主体的に活動に参加する力や態度を養う。	・新しい集団における所属意識をもち、自らの役割を果たしたり友達と協力したりして安全な生活が確保できるよう適切な活動や支援の場面を設定する。	A-①②		
	個々の実態に応じた課題を自立活動に反映し、将来の社会生活に必要な基礎的な学力や体力の向上を図る。	・生徒一人ひとりの実態や家庭生活等を的確に把握し、個々に必要な目標を設定し自立活動を展開する。また、各学習活動において効果的にICTを活用し、指導支援評価を実施し、成果や課題の見直し改善に努める。	B-③④		
	校内実習や地域交流等とおして、将来の自立や社会参加に必要な知識や技能、態度の育成を図る。	・体験活動とおしてのルールや学校内のルールを学習を実施し、個々の将来の生活やそれに必要な基礎力等について、職員間や家庭等との情報共有や連携を図りながら適切な指導支援に努める。	C-⑤⑥		
	様々な人や集団とのかかわりとおして、自己理解や他者受容を促し、良好な人間関係に必要な基本的な力や態度を養う。	・中学部第3学年や地域住民との共同学習を実施し、所属集団や他者に対する理解を深めたり、自ら相手にかかわろうとしたりすることができるよう適切な学習活動や支援の確保に努める。	D-⑦⑧		

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
高等部	生徒の個性を尊重しつつ、安心・安全な環境で、かつ、規律ある雰囲気のもと、自ら進んで活動に取り組み、最後までやり遂げる態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士のかかわりから、集団意識を高め、相互理解を深めながら友達と協力し助け合い、自主的・主体的に学習に取り組み、集団生活の中において安全に生活する力を養うようにする。</li> <li>・個々生徒の気持ちの動きや感情の変化を大切に受け止めることで自分を取り巻く環境にも、より自発的・能動的に働きかけることができるようにする。</li> </ul>	A-①②		
	個々のニーズに応じた課題を設定し、基本的な学力の向上及び体力や運動能力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の実態を的確に把握し、個々のニーズに応じて具体的な目標を設定し、指導内容や指導方法を工夫しながら適切な指導・支援を心がけICTを利用した授業の展開に努める。</li> <li>・自立活動の場面において、健康の維持や体力の向上を図るため、体を動かす場面を多く設けるようにする。</li> </ul>	B-③④		
	2年 将来の自立や社会参加に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身につけ、任された仕事は最後まで責任をもってやり遂げる力を培う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習全般において、一人一人の実態に即した内容、教材、方法等の工夫に努めるとともに、目的意識をもって意欲的、主体的に取り組むなど自発性を引きだせるような課題の設定に努めるようにする。</li> <li>・生徒が自ら考え、自主的・主体的に行動できるような言葉かけや環境づくりの工夫に努めるとともに、自発的な行動を大いに称賛しながら、できた喜びを自信につなげていくようにする。</li> </ul>	C-⑤⑥		
	他者との関わりを通して、場に応じたコミュニケーションの能力や好ましい人間関係の育成を図るとともに、助け合い、協力し合って活動する態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流や学校間交流での積極的な活動をとおし、学校外の他者と関わる機会を設けることで、相互理解を深めたり、信頼関係を築いたりすることができるようにする。</li> <li>・ホームルームや係活動、清掃活動など友達と協力し、助け合いながら活動する場を設定し、集団の一員であることの自覚を促すとともに、それぞれが実態に応じたコミュニケーション手段を拡充していけるようにする。</li> </ul>	D-⑦⑧		

項目	具体的目標	具体的方策	該当項目	評価	課題及び次年度への改善策
3年	<p>生徒の実態や適性に応じて、安全に生活できる力を身に着けるとともに、好ましい人間関係を意識し、相手を思いやる心など、社会人として必要な力を養う。</p>	<p>・安全な学校生活が送れるよう、日々の環境設定を充実させる意識を教員間で高めていく。一人一人の実態に応じた適切なコミュニケーション手段を身に着け、生徒同士の理解を深めることができるようにする。          ・道徳の時間を通して、相手を思いやる豊かな心の育成を図る。</p>	A-①②		
	<p>生徒一人一人の実態を的確に把握し、卒業後の生活を想定した学習内容を精選し、ICT教材を効果的に使用し、礎学力の定着を図る。また、自立活動の時間の指導をとおして社会参加の基礎的な力を養う。</p>	<p>・各授業でICT教材を積極的に使用し、わかりやすく興味関心を高められる授業を展開する。          ・自立活動の時間の指導を通して、生徒個々の特性を把握し、進路選定へ生かしていけるようにする。</p>	B-③④		
	<p>現場実習や地域交流を通して、社会参加に必要な技能、態度を育成を図り、地域社会で生活していく意識を育てる。</p>	<p>・自立と社会参加へ向けた指導の工夫を行い、生徒個々のニーズに応じた、将来の生活を想定した学習を展開する。          ・体験的な学習の場を設定し、社会規範やルールを理解し、集団生活を円滑に進めていける力を育成する。</p>	C-⑤⑥		
	<p>様々な人とのかかわりを通して、場に応じたコミュニケーションの能力や好ましい人間関係の育成を図るとともに、協力し合って活動する態度を養う。</p>	<p>・現場実習や交流学习、学校外での活動を通して、地域で生活していく生徒たちの情報を発信し、卒業後の生活の場での理解を広げていけるよう支援する。          ・友達同士で協力し、助け合いながら活動する場を設定し、集団の一員であることの自覚を促すとともに、それぞれが実態に応じた多様なコミュニケーションを獲得できるように支援する。          ・地域交流や学校間交流など、他者と関わる機会を設け、積極的な活動をとおして、相互理解を深めるようにする。</p>	D-⑦⑧		